
殺し屋さんの戯言

亜紀内 司

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺し屋さんの戯言

【Nコード】

N2771BA

【作者名】

亜紀内 司

【あらすじ】

いかにも厨二病な殺し屋の主人公が悪を懲らしめていく（主人公の方が悪だよなあ……）お話。舞台はきつと多分現代の東京のどこか。途中からちょっとファンタジーっぽいものが入る可能性が大。これは作者の私情です（）

1 - (1) (前書き)

いつもと雰囲気が違う小説を書けたらいいなと(笑)
ギャグばっかじゃあ飽きそうなので()

珍しくグロいです。

1 - (1)

まだ深夜にもならない、東京都某区の路地裏。

一人の中年男性は、冷や汗を全身に流しつつ、必死に何かから逃げようにして早足に歩く。

——コッ——コッ——

妙に響く、だんだん背後に近づいてくるその足音は、迫りくる恐怖を音で表したような、そんなものだった。

——コッ——コッ——コッ——

「っ……」

声を殺しながら必死に恐怖と戦うも、腰は引け、足はがくがくと震えている。

そんな彼を嘲笑^{あざわら}うかのようにして、足音の速度は増し、音も先程よりかなり大きくなっている。

——コッ——コッ——コッ——コッ——

「っ………なんなんだっ………！！！！！」

ついに男性は、堪え切れなくなったように叫び、彼にとっての全速力で走り出す。

彼は必死に走り、とうとう街の明るい光が届く、長い路地裏の出

口に差し掛かっていた。

車の排気音がし、少し先が明るく、眩しい。

耳を澄ますと先程までの足音は聞こえなくなっていた。

「はあ——はあ——はあ——ふう……………」

呼吸を整え、深く溜め息を零し、安堵したその時だった。

「こんばんは、お兄さん」

その少年は彼の前に突如、姿を現した。

「?!」

「いやあ、参ったよ。まさかお兄さんにまだ逃げる気力があるなんて思ってたさあ……………むこうでは相当凶たく生きていたんだね」

そう言って少年は口元を緩めて笑ったが、残念ながら町の灯で逆光になってしまっている為、男性には見えなかった。彼がかろうじで見えるのは少年の身長と持っている凶器くらいものだ。

「それにしてもお兄さん、随分理不尽な話だと思わないかい？」

男性が呆然とし、あまりにも無反応だったため少年がそう切り出す。

「僕等に仕事をさせて置きながら自分はこのうたと表舞台に立つなんて……。僕等を踏み台にして頂点に立つなんてさぞ気持ち良かったことでしょう？」

少年は一步、男性に近づく。

「ひっ」

男性は小さく悲鳴を上げ、その場で尻餅をつき、口をパクパクと動かす。

その様子を見た少年が、苦笑とも失笑ともつかない笑みを浮かべる。

「でもさ、なんの見返りもなしにこっちの世界から抜け出せるとでも思った？それはさ、あまりにも甘い考えだよ」

少年は笑いながら自らの凶器を愛おしそうに撫で、視線のみを男性に向ける。

「正義の見方ぶって演説して、裏では僕等を使って——結果、見事に当選。いやあすばらしい！全てアンタのシナリオ通りだ……！……………ねえお兄さん。アンタみたいな人をなんて言うか知ってる？」

——パタ。

少年の自らの凶器を撫でた白い指先から赤い液体が滴る。したた

彼はまるで他人事のようにその光景を無機質な瞳で眺め、ニヤリと笑った。

「——！」

「偽善者って言うんだよ」

一瞬で男性の横に移動した少年が彼の耳元でそう囁く。
そして、少年が右手で持っていた凶器を彼の喉笛に深く突き刺したのもほぼ同時だった。

「?!」

目をかつと見開きながら、一瞬ヒューヒューと空気が隙間を抜けるような音を出した男性は、大量の血飛沫を上げ、まるで糸が切れた人形のようにその場に仰向けになり倒れる。

その光景を無感情な瞳で少年は見下ろし、彼の血飛沫の勢いが小さくなるまで待つ。

血液が地面に広がり、大きな赤い池を作り上げ、血の飛沫具合が先程よりも収まると、少年はそつと男性に近づき彼の喉笛に刺さったままだった自らの凶器を引き上げる。

「…つと」

貫通していたらしく、抜くのに少し力を加えた為、体のバランスを崩す。

抜いた瞬間、血飛沫が軽く飛び、少年の白い頬に赤い液体がべったりと付き、顔を顰める。

「はあ、全く」

少年はそれを拭おうともせず、一人呟き、空を見上げる。

「なんて汚い世の中だろう」

彼の見上げた空は星一つ見受けられない薄汚れたものだった。

その次の日のことだ。

新聞やニュースで『東京都某区で笠村総理大臣が何者かによって
殺害！犯人は誰か？』という内容の物がいくつも報道されたのは。

1 - (1) (後書き)

主人公は多分厨子……だと思います()

感想やアドバイス、誤字等のご報告がございましたら遠慮なくどうぞ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2771ba/>

殺し屋さんの戯言

2012年1月7日01時51分発行